



深秋の候 市民の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、8月26日に開会しました8月通常会議においては26件の議案を審査いたしました。今回可決した補正予算には、国庫補助金を活用した事業費の補正として、障害福祉分野の人材確保に向けて魅力発信事業を実施するための経費と、高齢者施設等における防災・減災対策に係る整備費補助に要する経費のほか、市営住宅唐崎駅前団地テナントでの小規模保育施設の設置補助に要する経費が措置されており、市民の皆様様に安心・安全な日々を過ごしていただくための取り組みが一

ごあいさつ

層強化されたと考えております。

9月28日から「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」が開会され、本市では国スポで正式競技・特別競技あわせて12競技、障スポで正式競技2競技が開催されました。各競技会場においては、15学区の自治連合会やまちづくり団体と、6つの学区体育団体等により、特産品のふるまいを実施していただくなど、選手・関係者を温かくお迎えし、スポーツ振興を通じて大いに賑わった事をよろこばしく思っております。

国道161号湖西道路の真野から坂本北における4車線化については、去る9月27日に、4車線での本格運用が始まりました。この度の整備によって、慢性的な交通渋滞の緩和が図られるとともに、交通安全の向上が期待されています。

私たちが湖誠会の議員は、「夢があふれるまち大津」の実現に向け、皆様のお声を真摯に傾聴し、大津市政の発展のために引き続き全力で取り組みます。今後とも所属議員に対しまして、さらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

幹事長 竹内 照夫

右より

川口 正徳 議員
葉月 陽 議員
竹内 照夫 議員
竹内 基二 議員
草野 聖地 議員
福永 英晶 議員
寺田 英幸 議員

行政視察報告

行政視察報告7月23日・24日に2つの項目について先進地視察を実施しました。それぞれの内容は、次の通りです。

■敦賀駅西地区土地活用事業

「ちえなみき」について

(福井県敦賀市)

「ちえなみき」は北陸新幹線開業に先立ち整備された「TSURUGA POLT SQUARE otta」内の施設で、公設民営型では全国初の「書店」です。購入や閲覧のほかカフェ、ワークスペース、保育機能を備え、多世代の交流拠点となっています。丸善雄松堂と編集工学研究所が運営し、テーマに沿った書籍配置や多様なイベントを展開。地域との連携も深く、市の投資を抑えつつ民間活力を活かした好事例で、開業以来延べ190万人が来場し、市民と来訪者に親しまれています。

特色あるまちづくりで賑わい創出や集客を図るために、多様な支援やサウンディング、官民それぞれの良さを活かしていくことの重要性を改めて感じました。



■ブランディングプロジェクト

「寿司といえば富山」について

(富山県)

本市は「文学のまち大津」の実現に向けブランディングを強化し、2025年4月に創造都市ネットワーク日本に参加し、将来的にはユネスコ創造都市ネットワークへの参加も視野に入れています。

同じく「寿司といえば富山」というブランディングプロジェクトを推進している富山県を視察し、その10年計画を詳細に調査しました。富山県は「幸せ人口1000万」創出のため、ブランディング推進本部を設置し、観光・広報政策やクリエイティブ表現、ロゴマークを統一し、デジタルマーケティングも活用してブランドの情報発信力を強化しました。また、職人の高齢化、後継者不足が課題となっており、寿司職人養成、働き方改革、若手支援等に取り組んでいます。

これらの取り組みには、民間企業の視点やノウハウが活用されており、本市の取り組みに大いに参考になると感じました。



令和8年度『政策要望書』を市長に提出

令和7年10月21日(火)、令和8年度予算編成にあたり、58項目に及ぶ湖誠会としての「政策要望書」を市長に提出しました。

市民の皆様が、安心・安全に住み続けることができる、「夢があふれるまち大津」を目指し、今後も執行部と共に全力で取り組んでまいります。



令和6年度大津市決算の概要

8月通常議会において、一般会計を含む12会計の令和6年度決算について審査し、全ての決算議案について認定しました。

総括

- 歳入総額、歳出総額ともに前年度を上回り、決算規模は拡大しました。
- 実質収支、単年度収支はいずれも前年度に比べて増加しました。

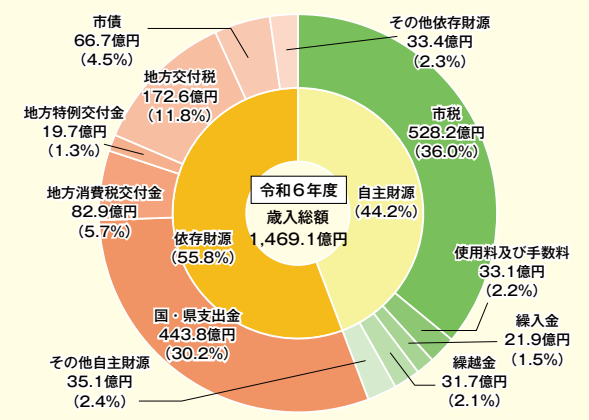
歳入

- 市税は、対前年度比で0.7億円の減収となりました。(▲0.1%)
- 国庫支出金は、対前年度比で1.6億円の増となりました。(＋0.5%)
- 地方交付税は、対前年度比で29.8億円の増となりました。(＋20.9%)

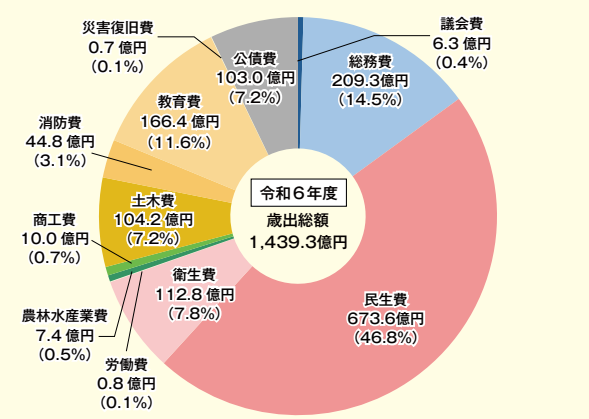
歳出

- 扶助費等の義務的経費は、対前年度比で79.8億円の増となりました。(＋10.3%)
- 一般行政経費は、対前年度比で22.5億円の減となりました。(▲4.8%)
- 投資的経費は、対前年度比で27.4億円の増となりました。(＋24.6%)

一般会計「歳入」決算額の内訳



一般会計「歳出」決算額の内訳



一般会計決算額

(単位：千円)

	令和5年度	令和6年度	R06/R05
歳入	138,637,822	146,909,564	106.0%
歳出	135,468,168	143,932,904	106.2%
差引 (形式収支)	3,169,654	2,976,660	93.9%
実質収支	2,576,456	2,791,920	108.4%
単年度収支	▲1,116,101	215,464	-
実質単年度収支	▲333,434	▲500,632	-

実質収支：形式収支から翌年度に繰り越すべき財源を控除した額
単年度収支：当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額
実質単年度収支：単年度収支に実質的な黒字を加え、実質的な赤字を差し引いた額

8月通常議会一般質問

質問、答弁は一部抜粋です。詳しくは大津市議会ホームページをご覧ください。



川口 正徳 議員

薬物乱用防止対策について

Q 近年、若者を中心に、大麻、覚せい剤、危険ドラッグ等の違法薬物の乱用が拡大している現状を踏まえ、青少年を中心とした広報・啓発を通じた市民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止策や、薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止策の取り組みについて伺う。

A 小学校5・6年生の体育科保健領域「病気の予防」、中学校の保健体育科「健康な生活と疾病の予防」のそれぞれの単元において、薬物乱用の危険性や有害性について正しく理解ができるよう発達段階に応じた学習をしている。また、市ホームページや広報おおつにおいて、薬物乱用防止を呼び掛けるとともに、大麻や覚せい剤などの違法薬物は、たとえ1回の使用でも乱用になり、同時に犯罪になることなどについて、周知・啓発を行っている。薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止策については、大津保護観察所との同行訪問等を実施しており、保護観察期間終了後も関係機関とのカンファレンスの開催や訪問により、継続的な支援を行っている。

※他に2項目の質問あり。



葉月 陽 議員

大津市の公設民営型施設について

Q 大津市にある公設民営型施設について、中でも指定管理の導入の現状と課題、及び、公共施設運営における今後の民間活力の導入について、施設の魅力をより一層引き出すことができる指定管理者の選定についての工夫について見解を伺う。

A 大津市では平成17年度から都市公園や観光施設など多くの公共施設を対象に指定管理者制度を導入しており、令和7年4月1日時点で352の施設が対象となっている。課題としては、公募に対する応募が1者のみの施設が複数あることから、競争性の確保や持続的かつ安定的な運営体制づくり、利用者の声をしっかりと把握した適正な管理運営やサービスの質の改善・向上に確実につなげていくことであると認識している。今後は公募に関する情報発信の手法や対象施設に関する情報提供、応募期間の確保など、より多くの事業者に応募していただけるよう引き続き工夫して、施設の魅力を引き出すことにつなげていく。



福永 英晶 議員

「文学のまち大津」のブランディング推進の現状と課題、今後の展望について

Q 本市では、歴史や文学といった地域ならではの魅力を活かしながら、「文学のまち大津」の実現に向け、ブランディングの強化を進めているが、市民や市内民間事業者とも連携し、さらに取り組みを強化していくことに期待する。本市の官民連携に対する考え方や今後検討されている取り組みは。

A 官民連携についてであります。文学のまち大津の推進には、行政のみならず、市民や事業者、関係団体などとの連携が不可欠であると考えている。

まずは11月に文学にかかるイベント「湖都の葉マルシェ」を開催し、これを官民連携のきっかけとしながら、(仮称)「文学のまち大津推進協議会」の設立を進めていく。



竹内 照夫 議員

膳所駅周辺整備推進事業の進捗状況について

Q 今年3月に策定された大津市総合計画第3期実行計画に、特に注力する取組として「周辺土地所有者と連携した膳所駅南側駅前広場の検討」があげられているが、市街地再開発準備組合との意見交換の内容や、地元等との協議状況などの進捗について伺う。また、市街地再開発事業との調整も求められる中で、どのように進めていくのか。

A 準備組合とは、国道1号との高低差が大きい地形への対応など、開発に係る懸案事項や都市施設のあり方などについて、幅広く意見交換を行っている。準備組合は、今年度内に基本計画の策定を目指しており、その方向性が示されたら、地元とも情報を共有していく。また、今年度には本市が策定する駅前広場基本計画では、市街地再開発事業と一体となった賑わいのある広場整備を目指し、安心して駅及び周辺施設を利用できる交通環境など公共としての機能と、賑わいや交流を創出できる空間といった民間が担う機能を整理し、双方が連携し、膳所駅南側にふさわしい駅前広場となるよう検討していく。